



熊本県益城町消防団  
団長 本田 寛

## 1 管内被害状況について

平成 28 年 4 月 14 日（木）21 時 26 分、熊本県熊本地方でマグニチュード 6.5、さらには同年 4 月 16 日（土）1 時 25 分、熊本県熊本地方でマグニチュード 7.3 の地震が発生し、我が町益城町では震度 7 を 2 回観測しましたが、全国で初めてのケースと聞いております。前震で建物の形状があった家屋も、本震では耐え切れずに倒壊してしまい、さらには震度 1 以上の地震が、前震から 3 か月を経過し 1,800 回を超え、余震の不安があるなど、住民の生活が何もかも変わってしまいました。

6 月 30 日現在で本町の被災状況は、死者 21 名、行方不明者 0 名、家屋の全壊 2,551 戸、大規模半壊 726 戸、半壊 1,883 戸、一部損壊 4,893 戸、また、消防関係建物については、町内にある熊本市消防局益城西原消防署訓練塔の倒壊、消防団詰所 32 箇所中、建物の傾き等により使用できない箇所が 15 箇所あり、前震時、詰所シャッターが動かなかったため、緊急



県道熊本高森線木山交差点（西→東）

に撤去・破壊し、積載車を取り出した班もありました。

## 2 活動内容について

前震発生直後、団員達は家族の安否を確認した後、団本部 3 名は町災害対策本部に参集し、情報の収集及び分団長等幹部への指示を行いました。また、団員達は 11 件 19 名の救助活動、救急搬送のフォロー、地域住民の安否確認、避難の呼びかけや誘導など、現場で判断し多岐にわたり活動しました。一方で、益城西原消防署訓練場等において、町消防団小型ポンプ操法大会の練習中であった班の地域において火災が発生し、自宅に帰らず消防署と連携し消火活動を行いました。

翌日には地域内の巡回パトロールにおける危険箇所の確認、ガス元栓や電気ブレーカー遮断などの広報活動、道路祖絶等による交通誘導などを 24 時間体制で実施していた際に、本震が発生しました。本震発生直後も、団員達は前震で対応した際と同様の対応を行い、16 件 32 名の救助活動を行いました。また、前震では



県道熊本高森線木山地内（東→西）

なかった橋梁や道路の祖絶、信号の停電等による交通整理、瓦礫などの撤去を行い交通ルート確保、踏査によるガス漏れやガス元栓のチェック、消火栓の確認、避難所運営や地元要望対応など、各班において様々な活動を行いました。

本震から2日後程度から、空き巣被害が発生したことを受け、7月上旬まで夜間における管轄区域内の巡回活動を継続して実施し、治安維持に努めました。

### 3 活動におけるまとめ

発災時及び活動時において、消防団員の1人も犠牲者を出さなかったことが救いでありました。また、前震時にガス元栓や電気ブレーカー遮断などの広報活動を実施したことが、本震時の火災0件につながったと考えます。さらには、日頃から消防団幹部や分団、班への連絡手段として携帯無料アプリ「LINE」を活用していたことが、発災時電話などが不通でも現場状況の確認、指示・相談や他班への応援要請、さらには情報の共有化を図ることができました。

### 4 団長からのメッセージ

熊本地震における2回の震度7は、本町内の住家の約4分の1が「全壊」、さらに4

分の1が「大規模半壊」「半壊」という甚大な被害をもたらしました。また、梅雨期に入り、河川堤防の沈下や水路祖絶等による水害があり、住居への床下・床上浸水や道路冠水などの被害がありました。また、地震による地盤の軟弱化した箇所及び崩落箇所の土砂災害への警戒を行う必要があります。今後は台風期に入り、家屋等の未解体箇所の状況によっては、2次災害への不安は拭い切れない状況にあります。

しかし、地震発生より現在に至るまで、自衛隊をはじめ、緊急消防援助隊、警察隊、災害派遣医療チーム、また、国の関係機関の皆様をはじめ、全国の地方自治体の皆様、民間企業、団体、個人の皆様、さらには全国の消防団の皆様から多くのご支援を賜りました。

ご支援をいただきました多くの皆様、この場を借りて心より御礼を申し上げます。今後は復興に向けて町民一丸となって歩み始めていきますとともに、私たちの経験が全国の今後の減災に役立つことがないか考え、行動していきたいと思っております。

これから長い道のりになると思いますが、今後とも皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



町道横町線木山地内（南→北）



役場屋上から撮影